

ドミニカ共和国

主要データ

国名〔英名〕	ドミニカ共和国 [Dominican Republic]
面積 (km ²)	48,670
海岸線延長 (km)	1,288
人口 (百万人)	10.0
人口密度 (人/km ²)	205.5
GDP (百万 US\$)	51,626
一人当り GDP (US\$)	5,228
主要鉱産物：鉱石	ニッケル
主要鉱産物：地金	ニッケル
鉱業管轄官庁	商工省 [Secretaria de Estado de Industria y Comercio] 鉱山総局 [Dirección General de Minería]
鉱業関連政府機関	Servicio Geologico Nacional (SGN)
鉱業法	鉱業法 (La Ley Minera No. 146) 探鉱権 3 年 (1 回に限り 2 年の延長が可能)、30,000ha 以下 採掘権 75 年、20,000ha 以下
ロイヤルティ	鉱業法第 119 条～第 121 条 ドミニカ港での FOB 価格の 5%
外資法	外国投資法 (Ley de Inversion Extranjera No. 16) 外資 100% の参入が可能
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境及び天然資源一般法 (Ley General sobre Medio Ambiente y Recursos Naturales No. 64) 環境影響評価を環境天然資源省に提出し、その承認を受ける必要がある。
鉱業公社	非鉄金属に関する鉱業公社はない。
鉱業活動中の民間企業	Xstrata、Globestar Mining、Barrick Gold、Goldcorp 等
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	特になし
2010 年のトピックス	・ニッケル価格下落により、Bonao 鉱山・製錬所が 2008 年 8 月以降操業停止。(注) 2011 年 1 月に操業再開。 ・2012 年の操業開始を目指し、Pueblo Viejo プロジェクトの開発が進捗。

1. 鉱業一般概況

ドミニカ共和国の鉱業の歴史は浅く、鉱山としては、Xstrata が最大株主の Bonao ニッケル鉱山と 2009 年に操業を開始した Cerro de Maimon 多金属鉱山の 2 鉱山が存在するだけであるが、近年、カナダ企業が主体となって塊状硫化物鉱床及びラテライト・ニッケル鉱床を対象とした探鉱活動が活発に行われている (表 1-1 及び 5. 参照)。現在、表 1-1 のような開発プロジェクトが進捗しており、特に、2012 年の操業開始を目指し開発が進捗している Pueblo Viejo 多金属プロジェクトは、表 1-2 のような金、銀、銅の大規模な埋蔵量を有している。また、同プロジェクトには亜鉛も含有しており、現在、如何にして回収するかも含め評価中であるが、2011 年 3 月に商工省鉱山総局 Octavio López 局長は、

JOGMEC メキシコ事務所のインタビューにおいて、同プロジェクトの亜鉛の埋蔵量は1,180千tと推定されると語っていた。同プロジェクトは、元来国営企業のRosario Dominicana社が酸化亜鉛を対象に露天掘により採掘していたが、亜鉛床が硫化亜鉛に変わり、同社の技術力では硫化亜鉛からの金属の回収が困難なことから売却したものである。

Publa Cola 金・銀プロジェクトは、かつて上記国営企業が生産したPueblo Viejo 旧亜鉛山のテーリングダムから金・銀を抽出するもので、埋蔵量は、金24.9t、銀124tと評価されている。

Xstrataが約85%の権益を有するBonao 亜鉛山・製錬所は、ニッケル価格の下落から2008年8月以降生産を停止し、2009年、2010年の同国のニッケルの生産量はゼロとなったが、2011年1月に操業を再開している。

Cerro de Maimon 多金属亜鉛山を操業するGlobestar社は、2010年10月に中国の中金嶺南股分有限公司の豪州子会社Perilya Ltd.に買収されることで合意した。(注)買収完了は、2011年1月。

表 1-1. 開発段階のプロジェクト

プロジェクト名	権益保有会社 (権益 : %)	亜鉛種
Pueblo Viejo	加 Barrick Gold 社 (60)、加 Goldcorp 社 (40)	Au、Ag、Cu、(Zn)
Publa Cola	豪 EnviroGold 社	Au、Ag

表 1-2. Pueblo Viejo 多金属プロジェクトの埋蔵量

	亜鉛量 (百万 t)	平均品位			含有量		
		金 (g/t)	銀 (g/t)	銅 (%)	金 (t)	銀 (t)	銅 (千 t)
確定埋蔵量	13.4	3.32	21.9	0.12	44.3	293.9	15.9
推定埋蔵量	241.3	2.87	17.8	0.09	691.3	4,287.6	225.9

(出典 : Goldcorp 社、Barrick Gold 社 HP)

2. 亜鉛業政策の主な動き

亜鉛山総局の独立、亜鉛業権申請等の諸費用の値上げ及びその費用を亜鉛山の監査等に使用するための特別会計の創設、環境規制の明文化等を骨子とした亜鉛業法改正案が国会に提出済みであるが、2008年以降審議が進まず改正法の成立の見込みは立っていない。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	対前年増減比(%)
ニッケル(千 t)	18.8	0.0	0.0	—
金(t)	—	0.4	0.5	+25
銀(t)	3.7	19.0	18.8	-1
銅(千 t)	2.4	11.5	9.5	-17

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2011)

(注) 2008 年 8 月から Bonao 鉱山がニッケル価格の低迷により生産を停止したため、2009 年、2010 年のニッケル及びニッケル地金の生産はゼロとなっている。2011 年 1 月に生産再開。

(2) 主要金属地金生産量

表 3-2. 金属地金生産量

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	対前年増減比(%)
ニッケル(千 t)	18.8	0.0	0.0	—

(出典：World Metal Statistics Yearbook 2011)

(3) 主要金属消費量

データなし。

(4) 主要金属輸出量

表 3-3. 精鉱・地金等輸出量 (マテリアル量)

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	対前年増減比(%)	主な輸出相手国
フェロニッケル (千 t)	92.5	1.0	0	-100	米国、フィンランド
鉛地金(t)	0	19	0	-100	オランダ

(出典：Global Trade Atlas)

(5) 主要金属輸入量

表 3-4. 精鉱・地金等輸入量 (マテリアル量)

鉱種	2008 年	2009 年	2010 年	対前年増減比(%)	主な輸入相手国
アルミニウム(t)	12	0	4	100	米国
鉛地金(t)	1	56	2	-95.7	米国、オランダ
亜鉛地金(t)	0	419	12	-97.1	米国、オランダ

(出典：Global Trade Atlas)

4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業 (権益：%)	鉱種	生産量			備考
			2008年	2009年	2010年	
Bonao	Xstrata(85.26)、ドミニカ共和国政府(10.64)、Redstone Resources(4.10)	ニッケル (千t)	18.8	—	—	ニッケル価格下落により、2008年8月以降操業停止。 (注)2011年1月に操業再開。
Cerro de Maimon	加Globestar Mining(100)	銅(千t)	2.7	11.5	—	2009年1月商業生産到達。上記1.に記した買収騒動の影響で2010年の生産量は未発表。
		金(t)	0.05	0.38	—	
		銀(t)	3.7	19.9	—	

(出典：各社 Annual Report、HP)

表 4-2. 製錬・精製所生産状況

製錬・精製所名	権益所有企業 (権益：%)	鉱種・形態	生産量			備考
			2008年	2009年	2010年	
Bonao	Xstrata(85.26)、ドミニカ共和国政府(10.64)、Redstone Resources(4.10)	フェロ・ニッケル	18.0	—	—	生産量はNi純分

(出典：Xstrata plc. Annual Report 2009等)



①Bonao ニッケル鉱山・製錬所 ②Cerro de Maimon 多金属鉱山 ③Pueblo Viejo 多金属プロジェクト

図 1. 主要鉱山、プロジェクト位置図

5. 探鉱状況

ドミニカ共和国では、カナダ企業が主体となって、塊状硫化物鉱床及びラテライト・ニッケル鉱床を対象とした探鉱活動が活発に行われている。主な探鉱プロジェクトは、表5のとおり。

表 5-1. 主要探鉱プロジェクト

プロジェクト名	権益保有会社(権益:%)	鉱種
Cuance	加 Globestar Mining 社(50) 加 Everton Resources 社(50)	Cu、Au
Bayaguana	加 Globestar Mining 社(100)	Cu、Au、Ag
Cumpié Hill	加 Globestar Mining 社(100)	Ni
Nieta	加 Unigold 社(100)	Au
Los Ranchos	加 Impact Silver 社(100)	Au、Ag、Cu
Jobo Claro	加 Everton Resources 社(100)	Au、Ag
Pueblo Viejo II	加 Everton Resources 社(50) 加 Linear Gold 社(50)	Au、Ag、Cu、Zn
Las Animas	加 GoldQuest Mining 社(100)	Au、Ag、Cu、Zn

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

2008年のドミニカ共和国から日本へのフェロ・ニッケル輸出量は、日本のフェロ・ニッケル輸入量の12.5%を占め、ニューカレドニア、コロンビアに次ぎ第3位となっていたが、上記 Bonao 鉱山・精錬所の操業停止の影響により、2010年のドミニカ共和国から日本へのフェロ・ニッケル輸出量はゼロとなった。Bonao 鉱山は2011年1月に操業を再開。

表 6-1. 日本への精鉱・地金輸出量

鉱種	2008年	2009年	2010年	対前年増減比(%)
フェロ・ニッケル(千t)	3.226	0.470	0	-100

(出典：JETRO 貿易統計データベース、貿易月報)

(2) 日本企業による投資状況等

特になし

7. その他トピックス

特になし

(2011.7.22 メキシコ事務所 高木博康)